

日満同時発行 シンガポール陥落記念切手

(Stamps to commemorate the Fall of Singapore issued by Japan & Manchukuo 1942)

中川 清*

Kiyoshi Nakagawa P. E. J.

1. はじめに

1年ほど前の甲府郵趣会例会で河村会員から「戦中の記念切手、例えば大東亜戦争1年記念などの実郵便は少ない」と聞いた。最近になって集友・山田氏から恵与いただいた非売本『戦前の記念・特殊切手 <JAPEX' 77>』にも同じことが書いてあると知った。私なりに、「シンガポール陥落」などの実郵便を探してみたがなかなか見つからなかった。

私がマテリアルを得る手段の一つに40年近いキャリアの骨董市巡りがある。(図1)



図1 関東圏の骨董市【2022年12月～2023年1月】

2022年12月、いつものように関東圏の骨董市を訪れた。なじみの店先に並べてある“紙もの”の中のエンタ類を抜き出して見ていると、第1次昭和切手東郷4銭を貼ったエンタがあった。“駄モノ”と思ったら表面に赤い文字が見え、「シンガポール陥落加刷」でしかも実郵便だとわかった。

さらにもう一通でてきた。(図2)
(類は友を呼ぶ)

ほかにもエンタを何通か選んだ。

5 清算する段になって値段を聞くとこの日に限って「いくらでも良い」とおおらかだ。

今までこの店では、1通100円から200円で買っていたので、1,000円払って品物を受け取った。

骨董市では、店主と私の価値判断基準が違うことが少なくない。

年が明けた1月、別な骨董市でエンタ10通で8,000円を請求され出せるのは1,000円だと言ったら最終的に1,500円で決着した。

値段の駆け引きなども骨董市の面白さの一つだ。

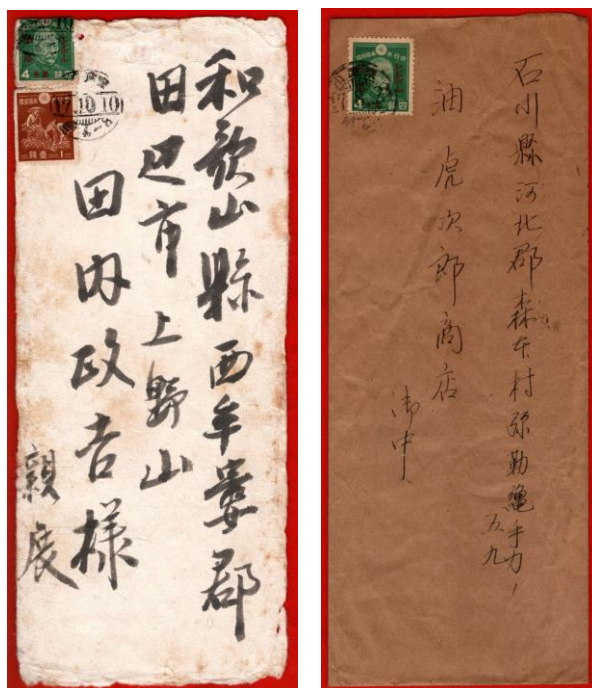


図2 「シンガポール陥落」貼 実郵便2通

2023年1月の甲府郵趣会例会で清水会員が「シンガポール陥落」切手リーフを解説してくれ、その一部を今月号に掲載した。

私も骨董市で手に入れた「シンガポール陥落」実郵便をリーフにまとめるために文献を何冊か調査してみると、冒頭に使用した「シンガポール陥落加刷」の「加刷」は間違いで「2色刷」で製造したことなど新しい知見を得たので、本稿をまとめてみた。

2. シンガポール陥落記念切手発行（日本）

○ 日米開戦とシンガポール陥落

1941年12月8日、日本海軍は、ハワイオアフ島真珠湾のアメリカ海軍基地を奇襲攻撃した。宣戦布告する前に攻撃したので、日本側は奇襲と美化したがアメリカ国民には“だまし討ち”と映り、それまで戦争に消極的だった国論が一気に好戦ムードに変化した。日本は、アメリカ、イギリス、オランダに宣戦布告し、太平洋戦争が開戦した。

東南アジアでは、12月中にイギリス東洋艦隊を撃破、香港を占領。年明け47年1月2日にはフィリピンのマニラを占領しアメリカ軍を駆逐した。2月15日にはシンガポールを陥落させた。

○ シンガポール陥落記念切手発行

当時、“白人支配からのアジアの解放”を大義名分に、“大東亜戦争”と称していた日本は、イギリスの東南アジア統治の中心都市・シンガポールを陥落させたことの意義を盛んに強調し、陥落の翌日、2月16日に国防献金を付加した記念切手2種を発行した。（図3）



乃木 2 銭+1 銭

東郷 4 銭+2 銭

図3 「シンガポール陥落」記念切手

陥落発表の翌日に乃木を描く2+1銭切手568万枚、東郷を描く4銭+2銭561万枚、合計1,129万枚という大量の切手を発行

していることから、切手発行計画は遅くとも開戦間もないころに立てられたと考えられる。

○ 加刷でなくて2色刷

この切手2種は、当時発行され一番使用されていた通常切手に色違いで「シンガポール/陥落」の文字が添えられ、献金額「+1」か「+2」が加えられていたので、『加刷切手』だと思い込んでいたし、そのように『日専2000』など郵趣専門書にも書いてあるのを鵜呑みにしていた。

戦前の日本切手や満州切手を調べたくて、『満州切手』（2006年）と『郵便創業150年の歴史 戦前編』（2021年）そして『さくら日本切手カタログ』（2019年）を読んだ。

これらの本は全て「2色刷」と記述していて、この内の1冊、内藤陽介著『満州切手』には、次のように書かれている。

『既にできあがっている切手に後から文字部分を加えて印刷する“加刷”の方式が採られたわけではなく、もともとの通常切手の部分と追加の文字部分を同時に刷っているので、見かけ上は“加刷切手”だが、実際には2色刷の切手と見るのが妥当である。……』

こういわれると、物資不足気味の昭和17年に12万シートもの余分な在庫があるわけもなく、飛行郵便試行（8万枚）の150倍の量を加刷するは無理だとわかる。

シンガポール
3. 新嘉坡東亜復帰^{なら}紀念*切手発行（満州國）

満州國は“大東亜戦争”に参戦していなかったが、“日満一体”の“スローガン”の下、日本の戦争遂行に協力すると表明していた。

シンガポールが陥落した場合、日本に倣^{なら}って紀念切手を発行する計画が満州國內で持ち上がったのは、開戦早々の1941年12月、日本軍がインド洋の真珠と喩えられるペナン島を占領したころとされる。

（当然、日本での切手発行計画はこれ以前にあったことになる）

年明けの1月中旬に切手発行が正式に決定され、時間的に余裕がないことから日本と同じように、当時製造されていた通常切手に紀念文字を加える方法が選ばれた。

満州國にとってイギリスは交戦國でも敵國でもないから、切手発行という國際的な國の事業として、建前上シンガポール陥落を祝賀するわけにもいかず、日本の掲げる“白人支配^{アジア}の亜細亞を解放する”という理念に賛同し、シンガポールがイギリスの支配から解放されて“アジア”の同胞として復帰したことを紀念するという何とも回りくどい論理が切手発行の大義名分として採用された。

こうして決まったキャッチコピー「紀念新嘉坡/復帰我東亜」と発行年の満州國年号「康徳九年」（昭和17年）をはがき用「荷馬車2分」切手と封書用「奉天北稜4分」切手に加えて色違いで印刷されることになった。ただし、日本と違い寄附金はない。（図4）

その製造方法は、もともとの通常切手の印面を印刷した後、裏糊を引き目打の穴明けする作業の前に紀念文字などを印刷するというもので、日本同様加刷切手というより2色刷と言った方が適切である。

調製された切手は、2月9日、10日に郵政総局から満州全域に配給されたが、この時点ではシンガポールは未だ陥落していなかった。

このため切手の発行日も、ラジオにより陥落の公報が放送された日とし、郵便局の窓口が閉まった後に放送があった場合は翌日と定められた。

2月15日の午後10時過ぎに陥落の公式放送があり、翌16日が切手発行日になった。

この年は陥落の発表があった2月15日が春節（中国の正月）にあたっていたこともあり、各地の郵便局には二重の祝賀気分^{なら}で紀念切手を買求める長蛇の列ができ、用意された切手は16日にほぼ売り切れた。

切手の発行が政府の公報で正式に発表された2月18日の時点で、郵便局の窓口^{なら}に売れ残った切手はほとんどなかったという珍事が起きた。

- * 満州切手には日本式の「記念」と中国式の「紀念」の表記が混用されている。「紀念新嘉坡」とあるので、「紀念」を用いた。



馬車2分 奉天北稜4分
図4 「新嘉坡東亜復帰」紀念切手

4. おわりに

■ 日満同時発行切手

私は1946年（昭和21年）10月、引き揚げ船が着いた長崎県の港近くにあった病院で生まれた。10月10日逆算すると、生を享けたのは敗戦から4ヶ月ぐらい経った1945年（昭和20年）の暮れごろになる。

誕生するまでの10ヶ月余りは、全く記憶はないが満州（現在に中国東北部）にいたことになり、そんな理由で満州切手にも少なからず興味がある。

日満一体の関係にあったので、「シンガポール陥落」だけでなく「満州建国10周年」「太平洋戦争1年」（図5）など日満同時発行の記念切手がいくつかある。

これらも、日満の立場の違いを反映して図案やスローガンが微妙に違っている。引き続きこれらの違いを生んだ背景などを調べてみたいと考えている。



日本発行2種「大東亜戦争」1年

満州発行2種「興亜自新日 12.8」
（興亜はこの日より 12.8）

図5 日満同時発行・大東亜戦争開戦1周年切手

5. 参考文献

- 1) 日本郵趣協会 JAPEX 委員会編：戦前の記念・特殊切手 <JAPEX' 77>記念出版
日本郵趣出版, 1977年
- 2) 司馬遼太郎：この国のかたち1, 文芸春秋, 1990年
- 3) 日本郵趣協会カタログ委員会編：日本切手専門カタログ2000
日本郵趣出版, 1999年
- 4) 内藤 陽介：満州切手, 角川学芸出版, 平成18年
- 5) 半藤 一利：私の昭和の戦争, アスコム, 2007年
- 6) 日本郵趣出版カタログ書籍編集部編：さくら日本切手カタログ2019年版
日本郵趣出版, 2018年
- 7) 内藤 陽介：切手でたどる郵便創業150年の歴史 Vol.1 戦前編
日本郵趣出版, 2021年

2023年1月作成

* 中川 清 住所：〒400-0075 甲府市山宮町 2755-6
技術士 〒140-0001 品川区北品川 3-5-8
【総合技術監理部門】 オフソングデンス御殿山 203
【精密機械部門】 携帯：080-2010-6600
メール：nakaga@tb3.so-net.ne.jp
ホームページ
HP：<http://jpskofu.jp>